社説　米軍事件で新枠組み

実効性が厳しく問われる

これでは屋上屋を架すような対応だ。これで米軍人・軍属による卑劣な性的暴行事件を防ぐことができるのか、実効性が厳しく問われている。

在沖縄米兵の性的暴行事件が相次いで発覚した問題で、在日米軍司令部は日本政府と連携して、在日米軍幹部、沖縄県、地域住民による新たな枠組みとなる「フォーラム」を創設すると明らかにした。沖縄県警との合同パトロールに向け、米軍のパトロール回数を増やす方針だという。

現時点で詳細は明らかになっていないが、今回の方針には首をひねらざるを得ない。米兵らが引き起こす事件・事故について協議する枠組みや組織は既に存在している。それが機能しないまま休眠状態になっているのである。

稲嶺恵一県政当時の2000年、「米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチーム」が始動した。しかし、県の開催要求にかかわらず7年ほど開催されていない。さかのぼれば、西銘順治県政当時の1979年にも在沖米軍、国、県による三者連絡協議会が発足したが、2003年の開催を最後に自然消滅した。

いずれの枠組みも、米軍基地の運用に関わるような具体的な協議に米側が消極的なために機能しなくなったとされる。今回、在日米軍の提案で創設される「フォーラム」も同じような状態に陥る可能性がある。新たな枠組みを設けたところで実効性を発揮しなければ意味をなさない。単なるアリバイづくりである。

そもそも米軍事件・事故の通報体制について定めた1997年の日米合同委員会合意すら形骸化している。日米合意が履行されないまま米軍事件が繰り返されているのだ。

「フォーラム」を創設する米軍と日米両政府は過去の2組織の機能停止について検証し、新組織で何を目指すのか、何を対象に協議するのか具体的に決める必要がある。基地の運用に関わるからといって米側が参加を渋るようなことがあってはならない。

在日米軍司令部の発表で県警と米軍の合同パトロールに言及していることも看過できない。合同巡回はこれまでにも米兵事件の再発防止策としてたびたび浮上した。

2012年には県内で相次いだ米兵事件を受け、森本敏防衛相（当時）が米軍側に那覇市内などで実施する夜間巡回を県警と共同で行うことを検討するよう要請した。

だが、県警側が日本の警察権が円滑に行使できないと懸念を示し、実行されなかった。県警が、身柄の措置で問題が起きる可能性や、既存の警察力の低下を招く恐れがあることを危惧したのだ。

逮捕権や捜査権がないがしろにされるような事態を招いてはならない。玉城デニー知事は「具体的な内容が速やかに示されることを期待する」とコメントした。主権を侵害する恐れのある合同巡回を安易に認めてはならない。

琉球新報 2024年7月24日（水）

声　子どもたちの意見

パリ五輪で真の休戦を

仲間　昇　68歳

先日のNHKローカルニュースで、細い棒の上で2匹のクモを戦わせる「くも合戦」の模様が放映されていた。鹿児島県姶良市の伝統行事だ。

人間は本質的に戦いや勝負事が好きなのだろう。沖縄でも古くから闘鶏（タウチー）や闘牛があり、人々はそれを観戦して楽しんできた。空手など1対1の対戦からチームによるスポーツ競技など、互いに闘争心を燃やしながら戦う姿は、見る者にも感動を与える。

ところが、同じ戦いでも戦争は全く別次元の話で、愚かな行為そのものだ。現在、ウクライナ侵攻やパレスチナ紛争など世界各地で戦争が絶えないが、ロシアやイスラエルのトップはゲーム感覚で戦いを続けているとしか思えない。

26日からパリで「平和の祭典」であるオリンピック・パラリンピックが開催される。期間中は「世界のあらゆる紛争の休戦を呼びかける」国連決議が採択された。この好機を捉えて、形だけの一時的な休戦ではなく、和平へつながる真の休戦へゴールすることを祈りたい。（浦添市）

電気料金にビックリ

宮城　美保子　72歳

猛暑が続く日々、皆この異常な暑さに悲鳴を上げている。それに輪をかけての事件、不祥事の数々にうんざりし、この国のかじ取りを任されている人たちに不信感をますます抱いている私だ。

国民の安心・安全・日常生活は守られているのか。そんな中、7月分の電気料金のお知らせが届いた。ビックリ！　2万円超の料金だ。私なりに値上げへの覚悟はあったし、それなりに節電もしていたつもりだったが、これ以上の我慢は命にもかかわる。

まだまだ暑さは続く！　ご近所でも皆さん金額に驚いて「生活できない」「これから午前中はエアコンは使わないで我慢しなくては」と口をそろえていた。年金暮らしの高齢者には大変酷なことだ！　危険な夏になりそうだ。（大宜味村）

防災対策実践したい

川野　純治　69歳

11日付本紙の「熊本豪雨4年追悼」を伝える「熊本日日新聞」転載記事を見た。先日、祖母の三十三回忌法要を機に、4年ぶりに出身地の球磨村を訪ねた。訪れた際の昔からの原風景が記憶に刻み込まれていたが故に、そのギャップは大きい。

沖縄でも「断水危機」がうそのように今年の梅雨は集中豪雨に見舞われ、近隣で道路冠水や土砂崩れが多発した。地球環境の変動が影響していることは間違いない。

私の住む中山区では昨年4人の若者が防災士試験に合格した。これを契機に「自主地域防災組織づくり」が本年度の区の重点活動計画に上げられた。区民運動会での「防災訓練」競技も検討されている。独居老人世帯が多い当区である。一人も取り残さない防災対策を実践していきたい。（名護市）

コストコに期待

大城　喜行　45歳

8月に南城市玉城垣花に大型スーパー「コストコ沖縄南城倉庫店」が開店する。食料品から調剤薬、カー用品まで品ぞろえも豊富で、6月にはガスステーションが先行オープンした。私の自宅からは車で20分程度の距離にあり、開店を楽しみにしている。

年に1度、南城市を一周するような形でツーリングに出かけるが、ルートに所在するので激変した街並みを見るのも楽しみにしている。コストコの開店を皮切りに周辺では居住施設や宿泊施設の建設計画もあり、さらなる活性化が期待されている。

沖縄観光といえば那覇市や西海岸、中北部に大型ホテルや商業施設が立ち並び南部方面や東海岸は素通りされてきた印象がある。コストコの開店で南部一帯が盛り上がり、沖縄を代表する観光スポットになるよう応援したい。（南風原町、会社員）

熱くならぬよう

仲里　昌彦　73歳

観楽の街、米のラスベガスは荒れ果てた砂漠に建設された。カジノ・ギャンブルの街として世界的に有名だが、その郊外には身元が分からない無縁仏の墓が数多くあるそうだ。ギャンブルで大負けし、絶望して滞在していたホテルなどで首をつるなどして自殺した人たちの墓だそうである。

大リーグで大活躍している大谷選手の水原元通訳のスポーツ賭博事件が明るみに出て話題になったが、彼はギャンブルにのめり込み負けが重なって、ついには大谷選手の預金口座から不正に1600万ドル（約24億6千万円）以上を引き出し、借金の返済に充てていたという。

ギャンブルの怖いところは負けが続くと熱くなって、それを取り戻そうと躍起になりエスカレートしていき、気が付いたら大金を失うことである。何事も感情的にならないよう気を付けよう。（沖縄市）

誇りもって校歌歌いたい

恩納村立仲泊小5年　武田　侑馬

「校歌には、どんな意味が込められているんだろう」。今日の校長講話を聴いて、スライドを見て思ったことです。

仲泊小学校ができたのはとても昔でした。そして、そのたくさんの歴史の中で校歌という大事な物ができたことが分かりました。

小学校ができたのは戦後間もない頃で、校歌は戦争をしないようにという思いが込められた歌詞でした。また、夢や希望をもって学ぶという意味や、豊かな自然に恵まれた学校であるという意味もありました。すべての歌詞が戦争をしないように、これからも平和であることを願って作られた校歌であることが分かりました。

これからは、校歌に誇りをもって歌いたいと思います。そしてこれからもこの平和な世界が続いてほしいと思いました。

ジェット機ついらく事故

うるま市立宮森小4年　普天間　憲展

宮森小学校には、65年前の6月30日の給食準備中にジェット機が落ちてきました。死者は18人と多かったです。

フクギという木が多くの人を守ったので、宮森小学校に『フクギの木』という歌ができました。

そして、宮森小学校には、その亡くなった人たちのために仲よし地蔵という地蔵ができました。

ジェット機ついらく事故を体験した人は、何十年たってもその悲しい事故を忘れられないそうです。

あの事故から65年の今、宮森小学校は平和です。平和な世の中にするために、相手の気持ちを考え、思いやりを持とうと思います。

論壇

県なぎなた界発展目指して

財源確保は喫緊の課題

上地　幸市

「夢と希望をのせて出航した『沖縄なぎなた丸』は、厳しい風雨の航海に耐え、堂々と目的地に到着した」

この一文は、県なぎなた連盟の前会長、長濱文子氏の創立30周年記念誌の発刊に寄せた冒頭の言葉である。

本連盟は、長濱氏を初代会長に1981年に設立し、今年で44年目を迎えた。

この間、全国高校総体や国民体育大会では毎年、優勝候補に挙げられるほどの優れた実績を残してきた。

また、幼稚園になぎなたを導入したり、「与那原町長旗・町長杯争奪小学生・中学生なぎなた大会」や「おきでん旗争奪県なぎなた大会」を毎年開催したりするなど、底辺拡大や競技力の向上にも組織を挙げて取り組んできた。

これもひとえに、前会長をはじめ、役員、指導者が和の心で組織力を向上させ、なぎなたの理念の下、人間力の育成に努力してきたたまものだと言える。

私はこのたび、県なぎなた界のレジェンドと崇拝する長濱前会長からバトンを引き継いだが、責任の重さを痛感しながらも新しい境地に身を置く楽しさを感じている。

それは「静から動への身のこなしや長いなぎなたを持ち替え、素早く繰り出す姿の美しさ」など、他のスポーツにはない魅力があり、「一本を取りに行く戦略・戦術の妙味さ、面白さ」に気付いたからである。

このような「なぎなた」の面白さ、楽しさを広めていくことも会長の役割と考え、さまざまな機会を通して発信していくことにした。

また、今後取り組むべきことについて、役員・指導者と意見交換をしたところ、幾つかの課題が挙がった。

一、ジュニア世代になぎなたの魅力を伝え、競技者を増やすための普及活動

二、上位の段取得にチャレンジする競技者の育成・支援

三、県外大会に係る派遣費の補助や指導者養成のための講習会、審判員研修会への派遣費の捻出など。

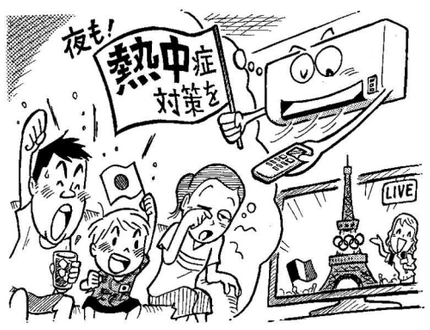
以上の課題を解決することが新会長のミッションと捉え、一つ一つ形にしていく所存である。

とりわけ、組織を盤石なものにして、競技力の向上を図る上でも財源の確保は喫緊の課題である。そのため、賛助会員の確保やチャリティーゴルフ大会の開催など、資金造成に取り組むことにしている。

さて、27日から全国高校総体や国民スポーツ大会九州ブロック予選が始まる。指導者・選手一同は県民の皆さまにうれしい報告ができるよう練習に励んでおり、私も吉報を心待ちにしている一人である。

（那覇市、県なぎなた連盟会長、73歳）

漫画時評



この夏、高まる期待と室温（松沢秀和）

防衛局長が虚偽発言認める

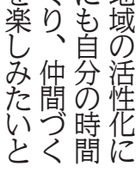
政府与党の常とう手段をまねしただけです（本音）

―伊藤晋哉局長

沖縄県民殿（浦添のじんぶん屋）

ティータイム

琉球新報　2024年7月24日



黄金言葉に触れていたら

渡久地　政弘

芥川龍之介の命日、7月24日は「河童忌」という。松尾芭蕉の「時雨忌」、太宰治の「桜桃忌」などと並ぶ有名な文学者の命日である。芥川は夏目漱石の後継者として幅広い読者層を獲得し大正の教養を重視する潮流に乗り時代の寵児となった。

だが、やがて時代と読者は芥川から離れていく。彼は1927年のこの日早朝、睡眠薬を飲み35歳の若さで自殺した。動機は「ぼんやりした不安」と遺書に記されていた。

「ぼんやりした不安」とは社会主義運動やプロレタリア文学の台頭という社会の変動に対応できない芥川の焦りと絶望だといわれる。

芥川の葬儀は7月27日に行われ、友人代表として弔辞を述べた菊池寛は涙をこらえきれなかったという。人生に疲れ切って自殺した芥川の魂に向かって「友よ安らかに眠れ」と呼びかけ「ただ悲しきは君去りて、われらが身辺、とみに蕭条たるをいかんせん」と結んだ。

後に共産党委員長になった宮本顕治は評論の中で、芥川はプロレタリア文学に敗北したと断言した。しかし社会主義運動やプロレタリア文学の勢力はいつまでも続かなかった。

芥川の激しい芸術的気質に対し、のんびりしたウチナーンチュの気質を言い表す言葉に「マクトゥソーケーナンクルナイサ」（誠実に生きておれば、何とか時間が解決してくれる。道は開けるよ）という黄金言葉がある。芥川がこの黄金言葉に触れていたら、社会変動への対応不能に絶望して死に急ぐことはなかったかもしれない。

（那覇市、85歳）

超高齢社会でできること

与那城　洋子

私たち民踊サークル「名護てぃんさぐ会」は6月13日、大宜味村の特別養護老人ホーム「やんばるの家」を訪ねた。ボランティア活動は12回目。主な狙いは「ホームの方々と楽しい時間を共有する」「活動の成果発表の機会とする」ことである。

私たち会員も70代から80代で、体力的には不安もあるが、それぞれができることを一生懸命やれば、見る人の心に届くと練習を重ねた。いよいよ本番、健康で舞台に立てることに感謝し「頑張ろう！」という気持ちになった。

定刻前に約80人の方々が、フロアに待機していた。車いすの方も多く座ったままで歌い踊る。手拍子を打ちながら笑顔で見入ってくれる人もいた。私たちも舞台で、またフロアに下りて手を取り、声をかけながら踊った。やがて会場は一体となり、楽しい時間は過ぎた。「みんな上手だった。楽しかった。若い頃はよく踊った」などの感想を聞くと、来て良かった、という気持ちになり、大きな力をもらった。

入所者に寄り添い、一緒に歌い踊る。全員で準備に対応し、運営もスムーズ。超高齢社会で大きな役割を担っていると感じた。4人に1人が65歳以上といわれる今、シニアの生き方が社会に大きく影響する。

私たちが健康で広く活動することは家庭を明るくし、地域の活性化につながる。忙しい中にも自分の時間を大切にし、健康づくり、仲間づくり、そして社会参加を楽しみたいという思いを強くした。

（名護市、82歳）

きょうの歴史　7月24日

▼四日市ぜんそくを巡る公害訴訟で、津地裁四日市支部が被告企業6社に、原告患者への損害賠償を命じる患者側勝訴の判決を下した。企業側は控訴せず、一審判決が確定した。公害健康被害補償法制定のきっかけとなった（1972年）▼第1次世界大戦の連合国とトルコのアンカラ政府がローザンヌ条約に調印した。オスマン帝国と結んだセーブル条約を破棄し、トルコは一部領土や主権を回復。アンカラ政府は新たな主権国家として国際的に認知され、共和国を宣言した（1923年）

＝沖縄＝

▼東京五輪柔道女子48キロ級で両親が南風原町出身の渡名喜風南が銀メダル獲得（2021年）▼名護市辺野古の新基地建設で、県は国が岩礁破砕許可を得ず工事を進めるのは違法として、国を相手に岩礁破砕の差し止め訴訟を那覇地裁に提起。県は2019年3月29日に上告を取り下げ、県の敗訴が確定した（2017年）▼地域住民が暴力団組事務所の使用禁止を求める裁判で、三代目旭琉会の6組事務所（9物件）について和解が成立。住民の主張通りに合意した（1992年）▼WBC世界Jウエルター級タイトルマッチで、浜田剛史がレネ・アルレドンド（メキシコ）に1回KO勝ち。県出身者で5人目の世界チャンピオンに（1986年）▼宮古の3製糖工場の合併決議のため開かれる株主総会を阻止しようと農民約3千人が集結。警官隊と衝突し、農民28人が逮捕された。総会は開催できなかった（1965年）▼立法院が労組法・労調法・労基法の労働三法可決（1953年）

投稿規定

論壇は1050字（要顔写真）、ティータイムは630字（同）、声は400字、ネットワーク（木、土曜の週２回掲載）は420字が目安です。趣旨を変えずに添削することがあります。原稿、写真（２回目以降不要）は返却しません。掲載可否の問い合わせはご遠慮ください。多くの投稿が寄せられ、掲載まで１カ月以上かかる場合があります。同内容での二重投稿は禁止します。多くの方に社会に発信する機会を提供するためです。東京新聞に転載される場合があります。

メールはkoe@ryukyushimpo.co.jp、ＦＡＸ098(865)5234、郵送は〒900―8525　琉球新報社オピニオン係（住所不要）。「うそっぱち」はＦＡＸ098(865)5222、郵送は〒900―8525　琉球新報社「うそっぱち」係。